



いかのおすし～いのちのおべんきょう～

本園では毎年11、12月に防犯教室を実施しています。日没が早くなるため、子どもへの声掛けやつきまとい事案が心配になる時期でもあり、「いのちのおべんきょう」と題して、自分の命を自分で守る行動が取れるよう、定期的に繰り返し指導しています。

基本は「いかのおすし」。どのような意味かお子様に聞いてみてください。年中、年長児であればほぼ答えられると思います。年少児で答えられたらお見事です。



防犯教室では、以下の事例を取り上げ、いっしょに考えました。

こんなとき、どうする？

- 1 「ママがじこにあったから車にのって」と知らない人から声をかけられたら・・・
- 2 知らない人から道をたずねられたら・・・
- 3 「いいものをあげるからついておいで」とさそわれたら・・・
- 4 一人でるすばんをしているときに、知らない人がいえに来たら・・・
- 5 大がた店のなかでまいごになったら・・・

1 ママのことが心配でたまらないと思いますが、知らない人なので絶対に乗りません。ほとんどの子が理解していました。「うそかもしれないから」や「ゆうかいされるから」など理由が言える子もいました。「おうちに帰って聞いてみます。」などと言って断りましょう。

2 困っている人に親切にしてあげるとはとても大事です。道を尋ねられたら教えてあげたくなる気持ちはわかりますが、いっしょについて行ってはいけません。「大人の人に聞いてください！」ときっぱり断っても失礼ではありません。

3 とても欲しい物で誘われてもついて行きません。友達と一緒にだっらいかなと思っている子がいましたが、子どもだけでついて行ってはいけません。しつこいようだったら走って逃げます。普段からダッシュで走る練習をしておくのは、自分の命を守るうえでも大事なことです。

4 やむを得ずおうちでお子様を一人にする際は、必ず鍵をかけ、できるだけ短い時間に限定してあげてください。幼児が長時間一人で留守番をするのは、強いストレスとなります。たとえ短時間であっても、留守番中にインターホンや電話には出てはいけません。サンタさんの格好をしても居留守を使います。

5 迷子の経験がある子は20人程度いました。なかには何度もあると答えた子も。迷子になったら、「レジに行く」とか「店員さんに聞く」とかベテランたちは的確に答えてくれましたが、大事なものはその冷静さ。落ち着いて自分の名前と年齢をはっきり言えればすぐに解決します。

12月は、同様の事例で下関警察署の方にお越しいただき、ご指導を受けながら演習を行います。おうちでも、身近な事例を取り上げ、時々いっしょに考えてあげてください。

先日の防犯教室では、この他にも通園バスの中で一人だけになったら、自転車倉庫の中に閉じ込められてしまったらといった事例も取り上げ、対処法を学びました。バスを利用している園児には、実際に一人ずつ警音器（クラクション）を鳴らす演習も行いました。「いのちのおべんきょうは」、危険予知力、的確な判断力、迅速な行動力を身に付けるおべんきょうです。（園長 寺本 明生）